第 4 章　学生の受入

本章では、農学部ならびに農学研究科のアドミッション･ポリシーに沿った学生（一般、留学生、社会人）の受け入れ状況（選抜入試、定員、実入学者数など）についてまとめる。

4-1. 入学者受入方針

学部では､全体及び学科ごとのアドミッション･ポリシーを定めている(第 1 章末を参照)。これらのポリシーは「京都大学学生募集要項」、「入学者選抜要項」、「京都大学大学案内知と自由への誘い」、「京都大学農学部ガイドブック」及びホームページに掲載して、受験生に広く公表し、周知を図っている。このうち大学案内とガイドブックはオープンキャンパス〈表 4-1〉で配付し、本学部に対して興味を持った受験生に直接ポリシーが伝わるように努めている。

研究科でも、全体及び専攻ごとのポリシーが定められ、募集要項及びホームページにおいて公表されている。また、平成 23 年度に発行予定の「京都大学農学研究科ガイドブック」にも掲載し、大学院説明会において、配付する予定である。

[分析評]

学部、研究科ともにアドミッション･ポリシーが明確に定められ、公表周知されている。

[資料]

○京都大学学生募集要項　○京都大学入学者選抜要項　○京都大学大学案内「知と自由への誘い」　○ガイドブック（研究科・学部）　○農学研究科／農学部ホームページ

4-2. 入学者の選抜

学部の入学者選抜は、全学体制で実施される一般入試と、農学部が独自に実施する私費外国人留学生特別選抜により行われている。一般入試は大学入試センター試験と個別（第 2 次）学力検査からなり､アドミッション･ポリシーに沿った幅広い視野をもつ学生を選抜するために、センター試験では国語、地歴あるいは公民、数学（2 科目）、理科（2 科目）、外国語の計 5 教科 7 科目、個別学力検査では国語、数学、外国語、理科（2 科目）の計 4 教科 5 科目を課している。センター試験と個別学力検査の配点はそれぞれ 350 及び 700 点である。選抜に用いる入試教科・科目等は主として学部教務委員会で検討され、選抜方法の適切性は全学的な視点から京都大学入学者選抜方法研究委員会で検討が行われている。教務委員会では、昨今の理科に関する学力低下を問題視する意見が出され、試験科目を 3 科目に増やすことのメリットとデメリットが継続的に話し合われている。試験科目数と難易度に関する学生アンケートの結果では、大多数が現状の科目数、難易度を妥当と答えている。

私費外国人留学生特別選抜では、日本留学生試験、TOEFL、学部で出題する理科の試験（2 科目）及び面接試験により、本学で学ぶための基礎的な学力と適性を判定している。

一般入試、特別選抜いずれの場合も、学科ごとに入学者を決定し、4 年間の一貫教育を実施している。ただし 3 年次への進学時において転学科希望者がある場合には、学業成績等を

考慮して若干数を許可する場合もある。また他学部からの転学部希望者についても、同じく3年次への進学時に学業成績や入学試験の成績その他を考慮して受け入れることがある。〈表4-2〉には、この7年間における転学部・転学科の状況をまとめた。

研究科では、一般選抜、私費外国人留学生特別選抜及び社会人特別選抜によって専攻ごとに修士課程入学者（8月中旬、1月下旬）、及び博士後期課程編入学者（1月下旬）を選抜している。選抜はいずれも研究科で独自に実施している。

一般選抜では、英語、専門科目（修士課程は2科目、博士後期課程編入は1科目）及び面接により選抜を行っている。英語の試験では、生物、化学、物理、社会科学の4分野にわたり農学研究にとって必要な英語読解力を見るための研究科共通の問題が出題される。専門科目と面接試験は、専攻ごとに専門分野に関する基礎的な学力とコミュニケーション能力・学究意欲を判定している。

特別選抜の方法も基本的には一般選抜と同じであるが、英語に関しては専門領域に関する語学力をより詳細に判定するために専攻独自の出題を行う場合もある。また博士後期課程社会人特別選抜では、筆記の専門科目に代えて口頭試問により専門学力が判定される。

また研究科では平成22年度から、英語のみで修了できる特別コースを開設したが、このための入学者は、学業成績表、TOEFL 等英語力検定試験成績、推薦状、研究計画書などの書類を総合的に調査して、適性を判断している。

以上の入学者選抜方法に関する適切性は、専攻ごとに検討され、研究科教務委員会で協議され、適宜見直しがおこなわれている。例えば、平成19年には一部の専攻でより専門科目の知識を深く問えるように試験時間を変更した。また、受験生の専門種目の志望は第3志望まで認めているが、従来可能としていた複数の専攻にまたがる志望についてはそれぞれの専攻による専門性の違いを考慮して、制限を設ける場合が増えている。平成23年度の修士課程一般選抜では、応用生命科学及び食品生物科学専攻が、より幅広い専門領域の知識を問うべく、従来の専門科目に関する選択をやめ全科目の解答を求めるようになった。

[分析評]

入学者選抜は適切に実施されており、選抜方法に関する検証を行いながら、よりアドミッション・ポリシーの趣旨に添うべく継続的に改善が試みられている。

[資料]

○京都大学学生募集要項　　○農学部私費外国人留学生特別選抜出願要項

○農学研究科修士課程学生募集要項（一般選抜、私費留学生特別選抜、社会人特別選抜）

○農学研究科博士後期課程編入学学生募集要項（一般選抜、私費留学生特別選抜、社会人特別選抜）

4-3. 入学者数の変遷状況

学部入学志願者数〈表4-3〉は、前期日程のみとなった過去4年間（平成19年から22年度）

で募集人員の 2.1 倍から 2.9 倍の間で推移している。なお前後期日程で実施した平成 18 年度は前期が 2.5 倍、後期が 10.5 倍であった。入学者数は、定員 300 に対して過去 5 年間（平成 18 から 22 年度）310 から 322 人の間で推移しており、平均の充足率は 105%とやや定員を上回る程度となっている。各学科の充足率はいずれも学部全体の充足率と差はなく、学科間のばらつきはない。例年、3 年次進学時に点学部・転学科が許可されるが、その数は各学科定員の 10%を越えないように調整されており、それにより各学科の在籍者数が大きく変化することはない。

また国際化をめざし、定員枠外で私費外国人留学生〈表 4-4〉平成 18 から 22 年度で計 5 名、いずれも中国）、及び日韓理工系留学生（平成 18 から 22 年度で計 5 名）を受け入れている。

大学院修士課程の場合、応募状況は専攻によってばらつきがあるが、全体としては過去 5 年間（平成 18～22 年度）入学定員 263 名に対して 408（1.55 倍）から 440 名（1.67 倍）の志願者がある。入学者数は 278 から 302 名（入学定員の 1.06～1.15 倍）の間で推移している〈表 4-5〉。この他、特別選抜により外国人留学生を毎年受け入れており（過去 5 年間 7～21 名/年、計 62 名）、これを加えた入学者数の定員に対する平均充足率は 116%（113～119%）である。

なお、充足率をそれぞれの専攻で見るとばらつきがあり、入学者が定員を 50%以上も上回っている専攻がある一方で、定員に満たない専攻もある〈表 4-5〉。

入学者のうち、他大学出身者の占める割合は過去 5 年間いずれの年においても約 1/3 である〈表 4-6〉。また、この間の社会人特別選抜による入学者は 1 名のみであった。

修士課程から博士後期課程への過去 5 年間の進学者は 34～62 名の間で推移している。博士後期課程からの編入学者（社会人特別選抜制度による入学者を含む）を加えると 52～68 名となり、これに特別選抜により入学する留学生（過去 5 年間 8～19 名/年、計 69 名）を加えても定員 120 に対する平均充足率は 62.3%にすぎない〈表 4-7〉。なお社会人特別選抜による入学者は 5 年間で計 19 名と一定の実績を残している。

以上のような修士課程における定員超過と、博士後期課程における定員未充足の傾向については、平成 20 年度から、研究科教務委員会において継続的に対応が協議され、それぞれの課程の定員を見直すべきとの意見も出されたが、研究科全体としての意見の一致はみられていない。

なお留学生の受入については、本学が「国際化拠点整備事業（グローバル 30）」の拠点大学として採択されたことにより平成 22 年度から設置された、「京都大学次世代地球社会リーダー育成プログラム(KUPROFILE)」の一環として、英語のみで修士及び博士後期課程を修了できる特別コースを開設した。専任の外国人教員を採用するとともに、本コースでは、従来国費留学生のみに限られていた 10 月入学の制度が私費留学生にも適用され、海外からの入学志望者の要望に対してより柔軟に対応できるようになった。初年度の本コース入学者数は下記のとおりで、順調な滑り出しを示している。

4月入学:修士3名（中国、インドネシア、ジンバブエ）
博士後期課程4名（インドネシア、ブラジル、中国、バングラデシュ）
10月入学:修士5名（中国、ネパール、バングラデシュ）
博士後期課程11名（中国、インドネシア、台湾、タイ、インド）

［分析評］

学部の入学者については、数年来、わずかに定員を上回りながらも安定して推移しており、適切な状況にあると言える。

大学院修士課程については、志願者の多さが考慮された結果入学者が定員をやや上回っているものの、全体としては健全な状況で推移している。しかし専攻によっては、入学者が定員に満たないところがあり、改善が求められる。今後も優秀な大学院学生を受け入れていく上で、広く本学部以外の学生に対して研究科を積極的にPRしていくことが重要である。その一環として、平成23年度からは学内外（京都大学東京オフィス等）で大学院説明会を開催することとした。

博士後期課程の入学者数が定員を大きく下回っている昨今の状況は、大きな問題である。我が国における近年のアカデミックポストの減少とそれに由来する学生の就職不安を大きく反映しているものと考えられる。社会情勢と密接に関係していることから、今後、急に大きく改善することは困難であるが、経済面や就職に関する学生支援の一層の充実・強化を図るべきである。またこれと並行して、少子化などの社会情勢をふまえた学生定員の見直しを継続して議論していく必要もある。

国際化をめざした留学生の教育体制は、大学院特別コースの開設により一段と整備され、発展が期待できる。

［資料］

○農学特別コース募集要項

〈表 4-1〉京都大学ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ農学部企画参加者数

年度	申込者数	参加者数
平成 16	391	371
平成 17	441	379
平成 18	497	485
平成 19	589	523
平成 20	744	562
平成 21	760	707
平成 22	760	690

〈表 4-2〉転学部・転学科の状況

年度	転学部(転出)		転学部(転入)		転学科	
	出願数	許可者数	出願数	許可者数	出願数	許可者数
平成 16	8	4	0	0	19	12
平成 17	10	7	2	0	12	11
平成 18	14	7	7	2	23	13
平成 19	4	2	3	0	6	4
平成 20	0	0	4	1	8	6
平成 21	1	0	1	0	3	1
平成 22	0	0	2	0	2	1

〈表 4-3〉農学部出願者数・合格者数等

年度	入学定員	出願者	合格者	辞退者	入学者		
					合計	男	女
平成 16	300	1413	313	3	310	243	67
平成 17	300	1293	319	4	315	227	88
平成 18	300	1300	315	5	310	202	108
平成 19	300	634	322	0	322	198	124
平成 20	300	796	316	2	314	206	108
平成 21	300	826	317	1	316	218	98
平成 22	300	876	316	0	316	212	104

〈表 4-4〉農学部私費外国人留学生特別選抜志願者数・合格者数等

年度	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
平成 16	25(11)	23(10)	7(3)	2(0)
平成 17	19(11)	16(10)	4(2)	3(1)
平成 18	13(6)	13(6)	3(1)	1(0)
平成 19	13(10)	13(10)	2(1)	1(0)
平成 20	5(3)	4(3)	2(1)	2(1)
平成 21	15(8)	13(7)	2(2)	0
平成 22	10(5)	10(5)	1(0)	1(0)

()は女子で内数

〈表 4-5〉農学研究科修士課程入学状況

年度	一般選抜					特別選抜による入学者		入学者		
	入学定員	出願者	合格者	辞退者	入学者	私費留学生	国費留学生	計	男	女
平成 18	263	433	317	15	302	5	4	311	192	119
平成 19	263	435	308	17	291	5	2	298	192	106
平成 20	263	440	315	14	301	10	2	313	237	76
平成 21	263	425	306	14	292	12	1	305	195	110
平成 22	263	408	295	17	278	17	4	299	193	106

〈表 4-6〉農学研究科修士課程入学者出身別構成

年度	本学農学部	本学他学部	国内他大学	国外他大学	計
平成 18	206	3	93	9	311
平成 19	198	1	92	7	298
平成 20	208	4	89	12	313
平成 21	196	7	89	13	305
平成 22	207	4	67	21	299

〈表 4-7〉農学研究科博士後期課程への進学・編入学状況

年度	入学定員	本学からの進学者		編入学者				進･入学者		
		日本人学生	留学生	出願者	入学者	出願者（留）	入学者（留）	合計	男	女
平成 18	120	62	6	10	6	3	2	76	57	19
平成 19	120	43	6	16	12	7	5	66	47	19
平成 20	120	52	6	16	15	9	9	82	59	23
平成 21	120	34	4	23	18	12	12	68	54	14
平成 22	120	50	7	15	13	13	12	82	61	18